

大飯原発再稼働で首相官邸に、20万人が怒りの抗議！ 反原発の闘いを更に推し進めよう！

首都圏反原発連合は、3月29日より毎週金曜日の夕方、大飯原発再稼働反対の首相官邸前抗議を行ってきました。6月16日に大飯3、4号機の再稼働が発表されて以降、参加者が急増し、ツイッターやフェイスブックでの呼びかけにも応じて、主催者発表で6月22日45,000人（警察発表11,000人）、29日約20万人と、1960年の日米安保闘争以降、最大とされる規模にまで膨れ上がりました。7月13日に行われた抗議行動にはプラカードなどを手にした約15万人（警察発表22,000人）が、「再稼働反対！」「原発いらない！」と約2時間、切れ間なく声を上げ続け、大飯原発を再稼働させた政府、関西電力に怒りをぶつけました。

この抗議行動に対して、初めは野田首相は「大きな音だね」（6月29日）と軽視していました。7月11日のブログでは、再稼働しなければ経済活動などに悪影響を及ぼすことを心配する声があることを紹介し、再稼働を正当化しました。そして、7月12日国会での「抗議の声を音と言ったのか」との追及には、「言った記憶がない」と反論していましたが、13日の夜には、この間の強気の姿勢は陰を潜め、「多くの声をしっかりと受け止めていきたい」と述べました。

ところでJR東海葛西会長は、7月8日付『読売新聞』「地球を読む」において、「誰も手を出そうとしなかった火中の栗を土壇場で拾った野田首相の責任感は一国のリーダーとして相応しいものだと思う」と、大飯原発再稼働を決定した野田首相を絶賛し、「原発はなくてはならない重要な電源」「原発の安全は政府が保証すべき」などと、またもや原発推進の持論を展開しました。福島第一原発事故の収束の目処が一切立たず、避難されている住民が多大なる犠牲を強いられている中で、このような発言は断じて許すわけにはいきません。

原発再稼働に反対し、全ての原発を永久停止にするために、反核・反原発を掲げ全ての仲間たちと固く連帯し闘おう！

官邸前デモ
首相ピリピリ

強まる勢い増すダメージ

東京新聞 7月14日

- 6月29日 「大きな音だね」(読売新聞の記者が「大きな音だね」で取材した)
- 7月6日 「多くの声、さまざまな声が届いている」(読売記者団)
- 11日 「計画停電や厳しい節電への不安を強く感じる方々の声も聞かざるを得ない」(読売記者団)
- 12日 「一つ一つのデモの皆さんに、私が出て行ってお会いすることは前例がない」(読売記者団)
- 13日 「多くの声をしっかりと受け止めていきたい」(官邸で記者団に)